令和７年度ぐんま県民カレッジ「地域の多様な学び講座」

ぐんま県民カレッジ

吾妻武士（あがつまぶし）の職能と紛争解決

―「吾妻鏡（あずまかがみ）」を読み解く―

群馬県立女子大学　群馬学センター　教授
篠瀬大輔　氏

	第１回	第２回	第３回
内容	源頼朝と三原巻狩（みはらまきがり）	吾妻四郎助光（あがつましろうすけみつ）と鶴岡放生会（つるがおかほうじょうえ）	三原荘（みはらのしょう）をめぐる 海野幸氏（うんのゆきうじ）と武田光蓮（たけだこうれん）の紛争
日付	10月1日(水)	10月22日(水)	11月19日(水)
時間	受付13：30～　開会14：00～16：00		
場所	中之条町ツインプラザ	東吾妻町中央公民館	サーラ嬬恋(嬬恋村東部公民館)

受講料　無料

申込み　フォーム　右記の2次元コード
メール　karasawa-k01@pref.gunma.lg.jp
電話　0279-75-3370

問合せ　吾妻教育事務所　生涯学習係　唐沢

申込み

開催要項

本講座では、**鎌倉幕府が編纂した歴史書である『吾妻鏡』**を、参加者と講師とで丁寧に読み解きながら進めていきます。テキストには、『吾妻鏡』最古の写本のひとつで、国の重要文化財に指定されている「北条本」（国立公文書館所蔵）を用います。各回では、鎌倉時代の吾妻郡内に本拠をもつ武士や、**吾妻郡内で起こった３つのエピソード**を取り上げ、それを題材に「武士の職能」と「中世社会の紛争解決」という視点から、**「武士とは何だろう」という問いを立てて考えていきたい**と思います。

★ ― ★ ・ ・ ・ ⊱ ∘ ― ― ― ― ― ― ∘ ⊰ ・ ・ ・ ★ ― ★

【エピソード１：源頼朝と三原巻狩】　　１０月１日　中之条町ツインプラザ

吾妻郡西部には、源頼朝が**三原（嬬恋村）で巻狩りを行ったという伝説**が広く分布しています。しかし、『吾妻鏡』建久４年（1193）３月21日条には、頼朝が「下野國那須野と信濃國三原の狩に出発し」、４月21日に「上野国から帰還した」と断片的に記されてはいるだけです。『曽我物語』にもそのことは語られていますが、その実態は必ずしも明確でありません。さて、**頼朝は本当に三原にやって来たのでしょうか**。そして、その目的の**巻狩りとは、武士や武家社会にとってどのような行事だったのでしょうか**。

〰 〰 〰 〰 〰 〰 ☽ ○ ☾ 〰 〰 〰 〰 〰 〰 〰

【エピソード２：吾妻四郎助光と鶴岡放生会】　　１０月２２日　東吾妻町中央公民館

吾妻四郎助光は鎌倉御家人として三代将軍・源実朝に仕える武士でした。しかも、藤原秀郷の子孫であり、秀郷流の武芸を継承する者として、鎌倉では一目置かれる存在でした。ところが、『吾妻鏡』建永２年（1207年）８月17日条には、助光が同15日に実施された**鶴岡八幡宮寺の放生会に実朝の護衛として参列すべきところを欠勤し、出仕を止められてしまった**とあります。しかし、身につけた**射芸が功を奏し、後に見事復活**を遂げます。さて、**武士・吾妻助光とはどのような「職能人」だったのでしょうか**。

〰 〰 〰 〰 〰 〰 ☽ ○ ☾ 〰 〰 〰 〰 〰 〰 〰

【エピソード３：三原荘をめぐる海野幸氏と武田光蓮の紛争】　１１月１９日　サーラ嬬恋（嬬恋村東部公民館）

『吾妻鏡』仁治２年（1241）３月25日条には、幕府の有力御家人である信濃国の海野幸氏と甲斐国の武田光蓮（信光）との間で、**上野国三原荘（嬬恋村）と信濃国長倉保（軽井沢町）の境界をめぐる紛争が勃発**したということが書かれています。こうした紛争を解決するため、貞永元年（1232）に「御成敗式目」という武家法が執権北条泰時によってすでに制定されていました。さて、こうした**地域紛争の発生・解決と、武士や武家社会の成立とはどのような関係にあるのでしょうか**。

★ ― ★ ・ ・ ・ ⊱ ∘ ― ― ― ― ― ― ∘ ⊰ ・ ・ ・ ★ ― ★

［講師紹介］　群馬県立女子大学 群馬学センター 教授　　簗瀬（やなせ） 大輔（だいすけ） 氏

1965年伊勢崎市生まれ。1988年國學院大學文学部卒業、2014年國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(歴史学)。現在、群馬県立女子大学群馬学センター教授。

群馬県立女子大学において、歴史や文化財に関する幅広い知識を生かし、地域社会に貢献。 群馬県文化財保護審議会専門委員を始め、地域の歴史や文化財の調査・研究に取り組む一方、歴史資料の保存・継承・活用のための活動にも携わる。専門的な知見をわかりやすく地域住民と共有することを心がけている。主な著書として、『小田原北条氏と越後上杉氏〈対決の東国史7〉』（吉川弘文館、2022年）、『中世の北関東と京都』（編著、高志書院、2020年）、『関東平野の中世』（高志書院、2015年）、『上野の戦国地侍』（みやま文庫、2012年）などがある。